

教材教具の概略(ねらいと使い方)

- ねらい 1. 教室内で「パグ」さしの練習をすることで「手指の巧緻性やスピード」や正確さ等を養う
 2. 異食をしようとする生徒は小さな「パグ」を食入る危険性があるので、異食しにくい長さにして取り組めるようにするため。

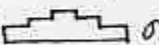
使い方 **A**は太い「パグ」(木の太さ約2.5cmφ)にして、半分に色をぬり、穴があいているが、色のぬりかたをさしたり、色のぬり方をさしたり、全ての「パグ」をさすスピードをタイムで計り競争したりした。また、「パグ」を片付けた。片手で「パグ」をぬき、片手で「パグ」を反転させて、再び穴をさすことにも取り組んだ。

Bは1本の太さを約10mmφとして、A同様に半分に色をぬった。

Cは牛乳の好きは生徒があり、その生徒が「興味をもて取り組めるように牛乳パックに色をぬり、さした。

ABCとも生徒の机の幅・60cmにそって、机の天板下にヒートン(1/2)を取り付けて、ヒートンで結んで固定した。また、棒(「パグ」)や牛乳パックはスクリーンをぬり、色のぬりかたを止めた。

児童・生徒の反応や教材の評価

- ・ 生徒の好みや発達に応じて活用した。短時間でとり組めるので「締め切り」や「区切り」が明確で良かった。
- ・ 木を使うと製作に時間を要するが「耐久性」が増す。木の感触やふれる音も大切にしたい。
- ・ まずぐにさす。まずぐにぬくを発展させて、斜めにさしたり、ぬいたり、手前になしたり、後ろにぬいたりする「パグ」を作ると生徒の手指の発達や空間の認識が広がると思われる。
- ・ タイムをストップウォッチで計ることによって「スピード」がUPしていくことを喜び生徒もいた。
- ・ **C**については同じ高さの木を削り、 のようにして(階段状にする等)、指や手を深めに入れないと取りにくい部分も作ると、生徒にとってより良かった。
- ・ 机の幅に合わせて作るとすきりした。収納面も良かった。